

## 上天草市立阿村小学校

### 研究主題

# 自立(自律)した児童の育成を目指す 道徳教育の充実

～考え、議論する道徳科の授業構成の研究を通して～



発問の構成  
及び  
発問の工夫



体験活動と道徳科の  
授業との関連の工夫

本校では、標記の指定を受け研究に取り組んでおります。今年度は、研究の視点の中でも「発問の構成及び発問の工夫」「体験活動と道徳科の授業との関連の工夫」の2点について、研究授業を中心とした授業実践を積み重ね、試行錯誤する中で、本校の「考え、議論する道徳科」の授業スタイルの確立を目指してきました。本リーフレットは、今年度の研究内容の概要をまとめたものです。

## 研究主題について

### 学校教育目標

ふるさとを愛する自立（自律）した阿村っ子の育成  
～笑顔いっぱい，知恵いっぱい，元気いっぱい～



### 研究主題

自立（自律）した児童の育成を目指す道徳教育の充実  
～考え，議論する道徳科の授業構成の研究を通して～

#### ●「自立（自律）した児童」とは

〈自立〉  
自分のことは  
自分でできる



〈自律〉  
自分の心は自分が  
決める

#### ●「考え，議論する」とは

- ・多面的・多角的に考える
- ・自らを振り返る
- ・自己の生き方について考えを深める
- ・問題意識をもつ
- ・自分との関わりで捉えて考える

#### ●阿村小学校では

- ・現時点での価値観を確認し，本時の「考えること」を捉える
- ・中心発問について，自分の考えをもつ
- ・多様な価値観に触れ，多面的・多角的に考える
- ・広がったり深まったりした，本時の「大切」を確認する
- ・「大切」の視点で自分を振り返る

#### 「考えること」とは

本時で考えていくテーマのこと。  
現時点での児童が持つ道徳的価値  
に対する問いを端的に表したものの。



#### 「大切」とは

本時で捉えた道徳的価値のこと。「考える  
こと」の答えとなるもの。導入時の道徳的  
価値より広がったり深まったりしている。

#### 仮説1

教材を自分との関わりで捉え，多面的・多角的に考えることができるような発問の構成や発問の工夫を行えば，考え・議論する道徳科の授業を展開することができるであろう。

#### 視点1 授業づくり

- ①発問の構成及び発問の工夫
- ②道徳科の授業における対話活動の工夫
- ③道徳的なよさや道徳的成長を見取る評価の工夫

#### 研究の仮説

#### 仮説2

共通体験を道徳科の授業に生かす基盤づくりとして，体験活動と道徳科の関連のさせ方を工夫すれば，道徳的価値への感じ方や考え方が深まり，道徳的問題への意識が高まるであろう。

#### 視点2 環境づくり

- ①体験活動と道徳科の授業との関連の工夫
- ②道徳コーナーの活用
- ③学習の基盤となる共通実践事項の取組
- ④「熊本の心」や「つなぐ～熊本の明日へ～」の活用

本時のねらい

- ・ねらいとする道徳的価値の理解を基に自己を見つめる、動機付けをする。
- ・現時点で児童が持っている価値観を自覚させ、全体で確認をする。

考えること

- ・本時のテーマを、内容項目の色(4色)で提示する。



教材を読む

発問構成及び発問の工夫

基本発問

- ・教材の内容を理解させる  
(例)・〇〇はどんな気持ちでしょうか。  
・感想を発表してください。

中心発問

- ・道徳的価値を捉えさせる
- ・多面的・多角的な見方・考え方を引き出す

何を問うか

- A**  
道徳的価値を体現している人物の言動を問う

どのように問うか

二者択一で問う

〈これまで〉  
(例)〇〇の言動を、どう思いますか。どう考えますか。  
(例)〇〇さんは、□□してよかったですか。よくなかったですか。(その理由は)

- B**  
問題場面での、自分がとる言動を問う

〈これまで〉  
(例)あなたなら、どうしますか。  
(例)あなたは、どちらを選びますか。(その理由は)

二者択一でその理由を問うと  
・児童が答えやすい。  
・自分の立場が明確になり話し合いがしやすい。  
・理由の中に児童の価値観が表れる。

補助発問

- ・道徳的価値を焦点化する
- ・道徳的価値を自分ごととして考えさせる  
(例) あなたはできますか。理由は。

大切

- ・児童が捉えた道徳的価値の確認をする。
- ・道徳的価値観の変容や広がりの確認をする。
- ・「考えること」の言葉に続ける。

書く

「大切」(捉えた道徳的価値)の視点で振り返る。  
「これまで」「これから」

発表

- ・道徳的価値の内面化を図る。
- ・道徳的価値の実現に向けて内面的資質を育てる。

あたためる



児童の意識

自分

教材



自分



価値観

価値観の確認

学習過程

気付く

とらえる・ひろげる

見つめる

あたためる

多面的・多角的に考え・議論する



中心発問に  
対する考え



書く

話し合い

ペア

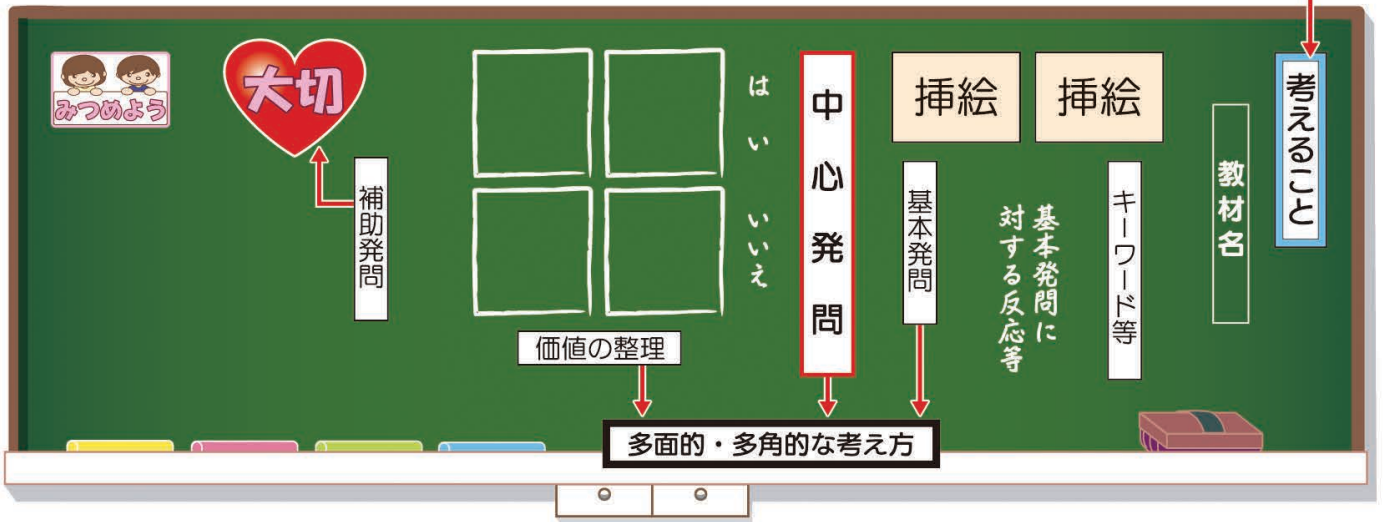
書く

発表

あたためる

# 板書の基本型

内容項目の色



## 具体例 1

1  
(5年)

主題名……相手の立場に立って親切に【B-(7)】親切, 思いやり

教材名……『くずれ落ちたダンボール箱』

ねらい……困っている人を見たときは, その人の身になって, 親切にしようとする態度を養う。



## 具体例 2

2  
(2年)

主題名……自分のわがままを見直す【A-(3)】節度, 節制

教材名……『わがままな大男』

ねらい……自分勝手な行動をすると自分も周りも気持ちよく生活できないことに気づき, わがままとしないで生活しようとする態度を育てる。



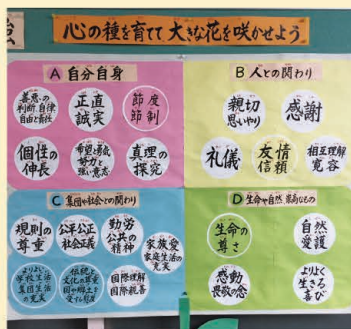
オリエンテーションの実施 全校→学級

学校の重点目標

「生命の尊さ」「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」

学年の重点目標

- (低) たんぽぽ 「節度、節制」
- (中) 「友情、信頼」
- (高) なのはな 「よりよい学校生活、集団生活の充実」



心は「生活全て」の中で育てます。道徳科の授業では、育てた心について振り返り、お友達と話し合います。心の種を育てるのは「自分」です。

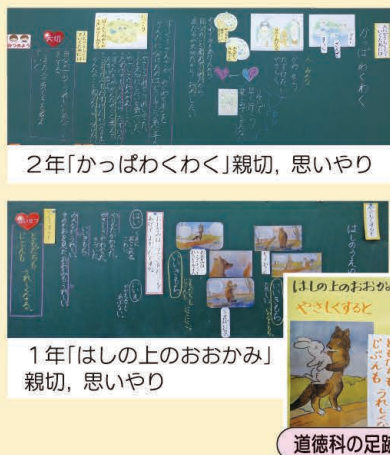
学級

- 道徳科の学習の進め方や話し合いの約束の確認をする。
- なりたいた自分をイメージする。

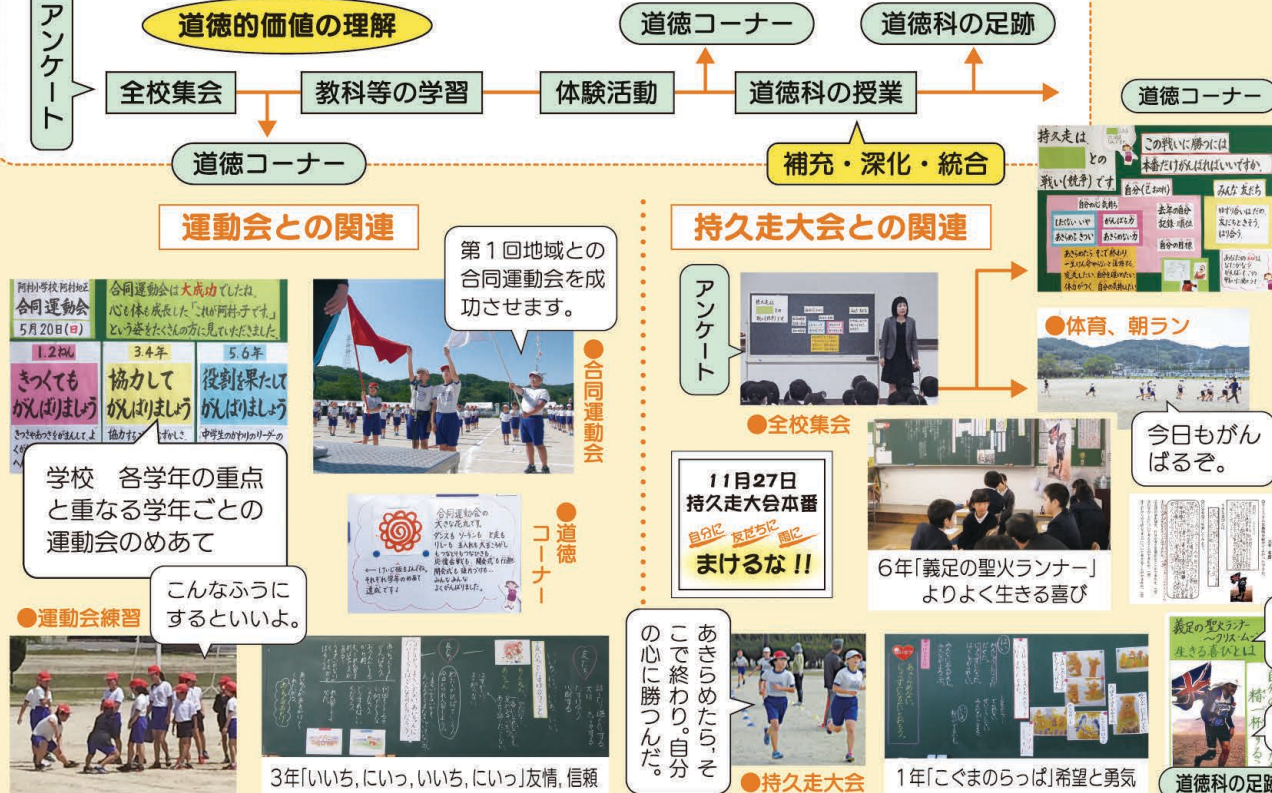
小さい子にも親切にしたい。お友達にいじわるしない子どもになりたい。



学年での取組



全校集会を起点とした学校全体での取組



合同運動会  
5月20日(日)  
1,2年生  
3年生  
5,6年生  
学校 各学年の重点と重なる学年ごとの運動会のめあて



持久走大会との関連



考えること 大切

# 今年度の取組を経て

## 〈教師の声より〉

- Ⓐ 児童の実態から、教材のポイントを捉えた発問づくりができるようになったな。
- Ⓑ 発問構成を考えたことで、児童の思考の方向もイメージできるようになってきたぞ。



Ⓒ 中心発問や補助発問によって、児童が自分の立場で考えて言えるようになったな。

Ⓐ 二者択一の中心発問で児童全員が自分の考えをもつことができたことがうれしいな。



- Ⓑ 価値観の整理や適切なタイミングでの切り返しは、難しいな。
- Ⓒ 児童がお互いの発表を聞きながら、価値観の違いを意識したり、考えを出し合ったりする場面を増やしたいな。

## 〈児童の作文より〉

阿村小学校 二年 校長先生へ

いつも朝、あいさつをしてくれたり、全校集会で「人けん学し」のことも、心のことや、一歩目の自立のことも、二歩目の自律のことも、くわしく、教  
えながら話してくれて、ありがたうございます。校長先生の話を聞くと、よくわかって、私もか  
んばりたいなと思います。い  
いそがしい中、しつもんを考  
えて、私たちに聞いてくれます  
ね。じぎょうそう大会のまえ、

「じぎょうそう大会は、何と  
なたがいますか」のしつもん  
の時、私は、みんなのたが  
い、書いて、だしました。ほ  
かにも、自分のたがい、や、時  
間とのたがいの答えもあると  
聞いて

「本きた、いろいろな答えがあ  
るんだな」と、思いました。

校長先生のおたんじび日は、  
おぼえていますか？

わたしたちは、校長先生外  
たのしみで、くれるといいな  
い画しました。

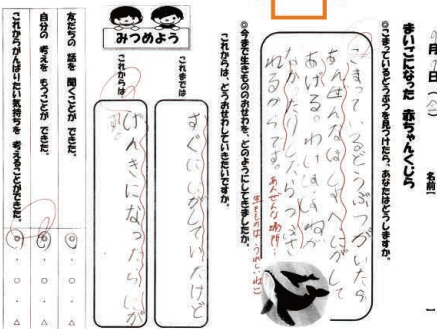
これからも、笑顔い、ばい、  
知恵い、ばい、元気い、ばい  
自分で記ろくしなから、みんな  
で、きょうカして、よく正し  
しい、生活をしたいです。  
私もかんばるので、校長先生  
もかんばってください。

いつもありがとうございます。



## 〈道徳科の評価〉（通知表のコメントより）

道徳科の学習を通して、「自分はどのような行動をとればよいのか。」を深く考えることができました。特に、「自然」や「生命」について考える学習では、これからもっと生き物に優しくしたいと書いていました。



## 〈心ノートより〉



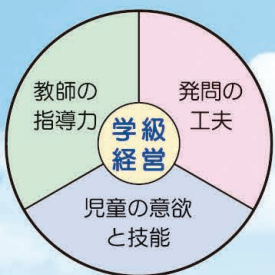
毎日の帰りの会で、1日の振り返りをノートに記入する。自分の思いや考えを書くなど、道徳的価値につながる記述も多い。

ぼくは今日の持久走大会で、今まで練習できなくて少歩いてしまっていたけど、今日は、足の痛みにも負けずにしっかりと走りきることができ、2番に今までで良いタイムでベストタイムよりは、おそくこえることができました。でも今日、走りきって、今日このような持久走が、成長かできたのは、友達や家族先生が、おうえんして、だした方のおかげだと、思っています。自分は、あまり走るのが、とくではないけれど、これから体がきつれるようになっていきたいと思います。今日、はちかたけと、みんな練習もかんばり、頑張りました。

足の痛みにも負けず、最後まで走りきった。  
練習も、体も、考えも、頑張った!!

# 次年度の方向性

◇「考え・議論する」授業展開を目指して「発問」を中心に研究を重ねる中で、話し合い活動を支えるものを、下記のように捉えることとした。次年度は、学年段階に応じた「児童の話し合いの仕方」と、児童の発言やつぶやきを適切に取り上げ、話し合いを調整する「教師の指導力」を高めたい。そのために、児童の実態把握や教師の切り返しの発問数を増やすなど、より細やかな授業構成を考えていく必要がある。



- ◇ 全体計画別業については、全ての教育活動で行う道徳教育の明確化とともに、道徳科の授業の効果的な配列について、見直しを行う必要がある。
- ◇ 各学年の年間計画については、本校の発問構成に沿った、整合性のある「ねらい・考えること・中心発問・補助発問・大切」を明記し、授業の評価がしやすい計画を作成していく。
- ◇ 全校集会は、事前の児童アンケート結果を使ったり、挙手での発表やペアトークを行ったりと、児童の参加場面を少しずつ増やしてきた。次年度は全校児童が積極的に考えを交流する場を設定するために学期に1回程度、計画的な全校道徳の実施を考えている。